

岩崎純一歌集		『新純星余情和歌集』>神祇の部				
歌集名読み		しんじゆんせいよせいわかしふ				
作者		岩崎純一				
通釈・語釈		園井長光、長光たき、戸井留子、武田あさゑ、蝶子、沙月式部、雪実少納言、岩崎純一(自釈)				
作者サイト		<a href="http://iwasakijunichi.net/">http://iwasakijunichi.net/</a>				
和歌ページトップ		<a href="http://iwasakijunichi.net/waka/">http://iwasakijunichi.net/waka/</a>				
自撰日	神祇の題	歌 岩崎純一 詠	通釈	語釈	他歌人欄(評)	他歌人欄(派生歌など)
2008/7/28	敷島	敷島やなべてあはれを忘るなよ天地(あめつち)に生(い)く我も忘れじ	日本よ、総じてしみじみとした情趣というものを忘れるなよ。日本の天地に生まれ生きている私も、それを忘れまい。			
2008/7/29	牛窓神社	牛窓の八千代の柱に照る月の色に吹きしく瀬戸の潮風	牛窓神社の悠久の柱に照っている月の色をして吹き敷いてくる、瀬戸内海の潮風よ。	◇牛窓神社：岡山県瀬戸内市		
2008/8/9	寄夏神祇心	隋神(かむながら)天(あめ)と地(つち)とに染(し)み返る我が心にもとほる御光(みひかり)	神々の御心のままに存在している天地に感動している我が心にも、御光が照り通る心地である。			
2009/7/5	御陵	天照らす現(うつつ)の帝(みかど)うつるとも動かぬ柱に並ぶ御陵(みささぎ)	現実の天皇、現実の生命は生々流転を繰り返すけれども、この天智天皇陵をはじめとする御陵ばかりは、全く動じずに柱に並んでい	◇御陵：天智天皇陵		
2011/2/15	やまごころ	行く末の人も桜もにほふべし朝日ははらぬ大和まほらぞ	将来の人々も桜も光り輝き栄えていることだろう。朝日の美しさも変わらない、この良き日本の土地で。			◆『古事記』編纂1300年記念行事に詠進
2011/2/15	やまごころ	神奈備(かむなび)の繁き木の間の秋津島もみぢの色の大和栄えむ	我々神々が降りてきた、夏の葉が生い茂って木と木の間が見えない山のように、栄えている日本。秋は秋で、もみぢの真っ赤な色のように明るく栄えることだろう。	◇枕詞「秋津島→大和」		◆『古事記』編纂1300年記念行事に詠進
2011/2/15	やまごころ	敷島の大和青垣うるはしく世は平らかにのちも成るべし	この日本の国の山々の緑は大変美しく、この調子ならば未来も平和に成り続ける(平成の)世となっていることだろう。	◇枕詞「敷島の一和大」 ◇参照「たたなづく青垣山ごもれる倭しうるはし」(『古事		◆『古事記』編纂1300年記念行事に詠進
2011/2/15	やまごころ	神代より天つ空にてまもらふとのちの大和の人に伝へな	我々神々の時代からずっと天空において見守っているよと、未来の日本人に伝えよう。			◆『古事記』編纂1300年記念行事に詠進
2011/2/15	やまごころ	煙立ち鴉立つべきうまし国豊葦原の大和の国は	今後も、陸には家庭の炊飯の煙がたちのぼり、海にはかもめが飛んでいる、すばらしい国であることだろう。この日本の国は。	◇参照「国原は煙立ち立つ海原は鴉立ち立つうまし国ぞ」(舒明天皇『万葉』)		◆『古事記』編纂1300年記念行事に詠進